
戦火の少年

郡司侑輝

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦火の少年

【Nコード】

N0524P

【作者名】

郡司侑輝

【あらすじ】

戦火に投じられた少年の心は何処に？

<ガガ…………ア…ゼウ…>

<ス…………ライ…！聴…………るか、応…せ…！>

とある宙域で、赤青黄の機体が力無く漂っていた。

中距離型のモジュールを背面に装備したこのモビルスーツは”G
AT-X105ストライクガンダム”。

その機体の周囲には、無機質な形状のままのモビルスーツが漂っていた。

どれもこれも急所を外されていた。

モビルスーツ戦において、コックピット等を当てずに敵の戦闘能力を奪うのは、ヤクザに5才児が喧嘩を売るような物と同じだ。

それが、この”ストライク”のパイロットならば可能なのだ。

やがて、淡いブルーの宇宙戦艦が”ストライク”の近くに迫ってきた。

全長はゆうに三百メートルをも越している。

名は”アルゼウス”それは正に、伝説のアーケエンジェルと同じ型だ。それに気付いたのか、”ストライク”は家に帰る子供の様に帰艦した。

<お疲れ坊主>

「……………」

専属のメカニックマンの声がコックピットの中のパイロットの耳に入ってきた。

その”ストライク”のコックピットから出てきたのは、まだ子供といえる程幼かった。

まだ高校生位の彼は、力無く慣性移動のままパイロットルームに向かった。

「……」

パイロットスーツを脱ぎ、軍の制服に身を包んだ少年は俯きながら、重力区域の廊下を歩いていった。

短い茶髪に、幼い顔立ち、ブラウンの瞳に血の気が薄い唇の少年の名はユウキ・ヤマト。かの伝説の”フリーダム”のパイロットの子孫。

コスミック
C・E（・イラ）156年。小さな火種が、約八十年ぶりに広がり、第三次ヤキンドゥーエ戦線が会戦された。

ユウキ「何で、こんな事になっちゃったんだろう……」

彼は軍服を着てはいるが、正規の訓練等は積んではない。

彼の住んでいた居住コロニー”エレメンタル”は、元々平和なコロニーだった。それが、ジャラジスカ帝国と名乗る武装組織が、旧式のモビルスーツ”ジン”で攻めて来たのだ。

たまたまそこに、オーブ軍が伝説の”ストライク”の新型を開発していたのだった。

そしてそこで、ユウキは両親を失ってしまった。しかも目の前で無我夢中になった彼は、偶然見付けたシエルター内にあった”ストライク”を発見し、出来損なっていたOSを書き換え、”ジン”を撃退した。そしてオーブ軍にコックピットから降りる所を見られ、半ば捕われの身となってしまった。

無論、彼一人だけではなかった。

「ユウキ！」

ユウキ「……………ヒカル」

ユウキを呼んだのは、双子の妹のヒカル・ヤマト。切れ目の長い目と、金髪のツインテールの彼女とは実質どちらが姉か兄か分からない関係でもある。勿論彼女も軍人ではない。

ヒカル「どーしたの？」

ユウキ「……………なんでもないよ」

そういつて、また顔を俯くユウキであった。

ヒカル「……………ユウキ、最近おかしいぞ？ パパとママが死んじやったのは、そりゃあまあ辛いけどさ、サヤカさんにも……………」

ユウキ「ヒカルは黙っててよ！！」

ヒカル「ご…ごめん」

サヤカと言うのは、ユウキとヒカルの幼なじみで家もお隣りの近所さんの付き合いをしていた。その彼女もユウキとヒカル同様軍人でも無く、軍服に身を包み、戦火に投じているのだ。冒頭でも、”ストライク”に通信したのも、CIC席に座る彼女のものである。

ユウキ「確かに、僕はサヤカもヒカルも守りたいと思ってるし、父さんや母さんが殺されたのも怒っているんだ。僕は渋々パイロットをやっているし、サヤカは自分からオペレーターをやってるんだ。それなのに、ヒカルは何もやらないの？」

ヒカル「っ……………そ、それは……………」

ユウキ「何も言い返せないなら、色々と言わないでよー!!」

その怒号は、誰もいない廊下に響き渡る。ヒカルをその場に置いたユウキはいそいそと自室へ歩いて行つた。

今現在、ユウキの階級は少尉。ヒカルは二等兵でサヤカは曹長である。なので、士官クラスのユウキは1LK程の広さがある。その部屋のベッドに、ユウキは力無く体を倒す。

ユウキ「なんで……………こんなことになっちゃったんだろう……………」

サヤカ「なーに考えてるの?」

ユウキ「…っうわあー!!」

物思いにふけているユウキの目の前に、空色の長い髪の毛を揺らしたサヤカ・ナカサトの顔がいきなり現れて、ユウキは驚きたじろぐ。

ユウキ「サヤカあ、驚かさないでよ……………」

サヤカ「ユウキががらになく落ち込んでたりするからでしょ?」

ユウキ「それもそうだけど……………」

サヤカ「……………殺せなかったんだ。また」

ユウキ「!-!!」

サヤカ「言わなくても分かるよ。………… ユウキは不器用だから、秘めてる物が分かるんだよ」

ユウキ「…………… 僕は… 僕は父さんと母さんの仇が討てなかった…」

ユウキが一度戦火に投じれば、必ずカメラと武装と脚部等の戦闘能力だけを奪ってしまうのだ。しかし、敵はユウキの両親の命を奪った組織なのだが、人を殺すのを恐れているのだ。

ユウキ「僕は…………… 一体……………」

ユウキは頭を抱え、ついには目から涙を流し号泣していた。

そんなユウキをサヤカを抱きしめた。優しく包んだユウキの頭を流すように撫でていた。これが幼なじみとしての彼女の、精一杯の慰めである。

サヤカ「ユウキはユウキでいいんだよ？ 優しいのは、ユウキだから……………」

ユウキ「…………… サヤカ…………… ありがとう……………」

二人固く抱き合っているその時、アラート警報が大きく鳴った。

<総員第一種戦闘配備！パイロットは搭乗機及びオペレーターは所定の位地へ！！>

ユウキ「サヤカ、ありがと。僕は、僕の戦争をするよ」

そうサヤカに言い残し、ユウキは格納庫ハンガーに急いだ。
そして、サヤカもブリッジに急ぐ。

パイロットスーツを身につけたユウキはまっすぐ”ストライク”に乗り込んだ。機体を立ち上げてレバーを握りしめる。カタパルトレーンに足を固定すると同時にサヤカの声がヘルメットのスピーカーから聞こえてくる。

サヤカ<カタパルト接続、装備は中距離型モジュール（エールストライカー）を装備します。システムオンライン、進路クリアー。”ストライク”どうぞ！>

目の前の宇宙空間が、まるでユウキを迎え受けてくれるような光りを出していた。

ユウキはそれに答えるが如く、叫ぶ。

ユウキ「ユウキ・ヤマト、”ストライク”行きますっ！！」

カタパルトが射出され、”ストライク”は色付き、星の海に包まれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0524p/>

戦火の少年

2011年1月31日05時42分発行